



ハンガリー国立アーカイブズ (National Archives of Hungary)訪問記

高野山大学

藤吉 圭二

Keiji FUJIYOSHI

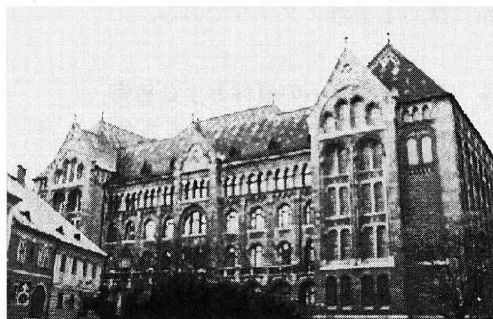
はじめに

去る2010(平成22)年12月14日(火)～17日(金)、筆者は数名の仲間とともにハンガリーのブダペストでアーカイブズ調査を実施した。そのうちハンガリー国立アーカイブズ(以下NAH)についてご報告したい。

今回のNAH訪問の主目的は、社会主義時代の記録がどのように扱われているかについて知ることだった。1980年代半ばよりソ連(ソビエト社会主義共和国連邦)では、ゴルバチョフ書記長(のち大統領)によって進められたペレストロイカ(改革)とグラスノスチ(情報公開)が契機となって政治体制が動揺・解体し、その影響のもと他の多くの東欧諸国と同様ハンガリーも共産党(社会主義労働者党)一党独裁による社会主義国家から体制を転換した(東西ドイツも統一された)。

このような体制転換をナショナルアーカイブズがどのように扱っているか。体制が転換してもそれを担っていた人々がなくなったわけではない。公開されれば都合の悪い記録もあろう。2年前ご紹介した「恐怖の館」に見られるように、社会主義時代への嫌悪は強く残っているようであり、それらの記録は国民統合を動揺させるものともなりうる。

事前に質問票をメールしておいたため、主目的とした件以外にも、かなり丁寧にレクチャーをいただくことができた。きちんとした報告とするには、他の資料などにも当たったうえでまとめる必要がある。本稿では速報のようなかたちで調査内容の概略をご報告したい。



NAH本館 正面玄関にはBlueShieldの表示

1 記録管理の時代区分

NAH本館は、歴史的建物群が並ぶブダ城地区の北の端に建つ地下1階、地上5階建ての巨大な建築である。地上のフロアはそれぞれ2層に分けられ、収蔵量を多くする工夫が施されている。本館以外に2つの建物があり、以下のように時代を分けていくつかのセクションが記録管理に当たっている(一部モノ資料もある)。

- (1)16世紀から19世紀(二重帝国成立)まで
- (2)二重帝国および第二次大戦まで
- (3)1945年以降の社会主義政府および共産党中央組織の記録
- (4)1945年以降の政府経済担当機関の記録

日本のいわゆる地域資料は扱っていないようだったが、国の中枢の記録は16世紀までさかのぼってここに保管され、歴史の研究者や学生および一般の利用者が閲覧室に通っている。また地元の小中学生が訪問してハンガリーの歴史について学ぶというプログラムも用意されているようだ。このような事情で、そのセクションを担当するアーキビストに

は、英語などの外国語のほかラテン語など古典語の能力が求められる。

2 スタッフ

2010年10月末現在、常勤スタッフは237名にのぼる。うちアーキビストは96名で全体の40%、修復担当、製本担当、司書が合計で22名、それらの業務の補助スタッフが50名、以上を合わせ、プロフェッショナルスタッフが168名で全体の70%、残りの69名が管理的業務に携わる事務スタッフである。

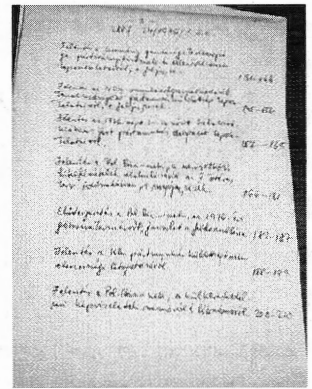
3 アーキビストの要件および教育

NAHがアーキビストに求める能力には、アーカイバル・サイエンスまたは歴史学の修士学位、およびドイツ語、ラテン語などの語学力がある。二重帝国時代以前の記録も扱う必要からこのようになっている。また、NAHのアーキビストの多くはELTE(ブダペスト大学)で学んでいるという。そこでは歴史学科の一部門としてアーキビスト教育のコースが置かれているようだ。

4 共産党のアーカイブズ

社会主義政権時代、共産党(ハンガリー社会主義労働者党)は国政を担う組織であった。したがってその記録は、政府そのものの記録と並び国家運営を証し立てる記録となる。NAHが共産党の記録を保管しているのはこの理由による。ただし保管対象は党の中央機関の記録(委員会の議案書や会議録なども含む)であり、地方組織の記録はそれぞれの地方のアーカイブズが保管しているとのことであった。驚いたのは、共産党が党独自のアーキビストを置き、記録管理に当たらせていたという点だ。もちろん、政治警察、秘密警察もあった時代の政権党なのだから、活動のすべてが記録に残されているとは思いいくいが、しかし実際に見せていただいた手書きのレコードスケジュールは、厚さにして1センチ弱はあり(右写真)、一体どのような管理体制になっていたのか興味をそそるものだった。

た。現在NAHでは、党の記録のデジタル化とウェブ公開を精力的に行なっているという。



5 現代の政府記録

「公的記録、公的アーカイブズ、および私的アーカイブズの保護に関する1995年の法律116号」の定めるところにより、NAHはハンガリーの中央アーカイブズとして、大統領および大統領府、議会および議会事務局、議会オンブズマン事務所、憲法裁判所、首相および首相府(ただし除外条件あり)、国家規模の省庁および政府機関、以上の直接の指示のもとにある海外機関、最高裁判所、法務長官府、国家会計検査院、国立銀行、および、これら諸機関の前身機関のアーカイブズ、さらに、それ自体でアーカイブズ施設を持たない国家レベルの公的組織や公的基金の記録を保管することとなっている。日本では公文書管理法策定の際、行政府の監督下にある一独法が三権を超える権能を持つことには問題があったといった議論がなされたが、NAHはかなり広い範囲の記録を扱っていることが分かる。

おわりに

警察政治につきものなのが密告制度だ。ポーランドではヤルゼルスキ大統領の時代に共産党時代の密告者リストが公開されたが、ハンガリーはまだだという。恐怖の館はそういう現状をも象徴しているのかも知れない。

■付記

本稿は科研費共同研究「国際比較に基づくアーカイブズと社会の関係に関する総合的研究」(課題番号22330164)の成果の一部を公開するものである。